

在宅医療において携帯型 PT-INR 測定器を用いた ワルファリン管理が有用であった 2 例

総合メディカル（株） そうごう薬局 三井店
鮫島 孝仁

【背景】

ワルファリンは定期的な検査と厳密な治療域の維持が必要となる。しかし、その血液検査には専門の機器が必要であるため、患者または医療機関の負担が大きくなりやすい現状がある。そこで当薬局で往診に参加している在宅施設において、ワルファリン服用中の患者を対象に携帯型 PT-INR 測定器を用いた結果、ワルファリン管理に有用であった事例について報告する。

【方法】

携帯型 PT-INR 測定器の利用を提案して、在宅訪問施設の医師の往診に同行し、医師が現場で迅速に PT-INR の測定を行った。得られた数値に応じてワルファリンの効果の検討を医師と一緒に、結果に応じて薬剤師の視点から処方提案を行った。

【結果】

①80 代男性、心房細動でワルファリン服用中の患者。初回測定時は PT-INR 値 1.4 で治療域より低値であった。他科受診、併用薬、服薬状況等に問題はなかったため、増量による副作用リスクは少ないと判断。医師との検討の結果ワルファリンは増量となった。一か月後の測定結果は 2.2 で、治療域内の数値であった。出血傾向等副作用も見られずワルファリンの用量は継続となった。
②70 代男性、上腸間膜静脈血栓症でワルファリン服用中の患者。初回測定時の PT-INR 値は 1.4 であった。他科受診、併用薬、服薬状況等に問題はないと判断。ガイドライン上は治療域の設定がないため医師との協議のうえ、用量に変更なく継続処方となった。

【考察】

携帯型の PT-INR 測定器を使用することで、ワルファリンの有効性の確認、副作用リスクの検討が、在宅現場において簡易で迅速にできるようになった。また、医師との同行時にその場で PT-INR の結果がでるため、他剤との相互作用、副作用の有無、服薬状況等、薬剤師の職能を活かした処方提案を医師にしやすくなった。今後、薬局現場での携帯型 PT-INR 測定器使用が広がることで、薬剤師が外来、施設を問わずワルファリンの適正使用に寄与することができるようになると思う。

【キーワード】

在宅医療、ワルファリン、PT-INR、処方提案